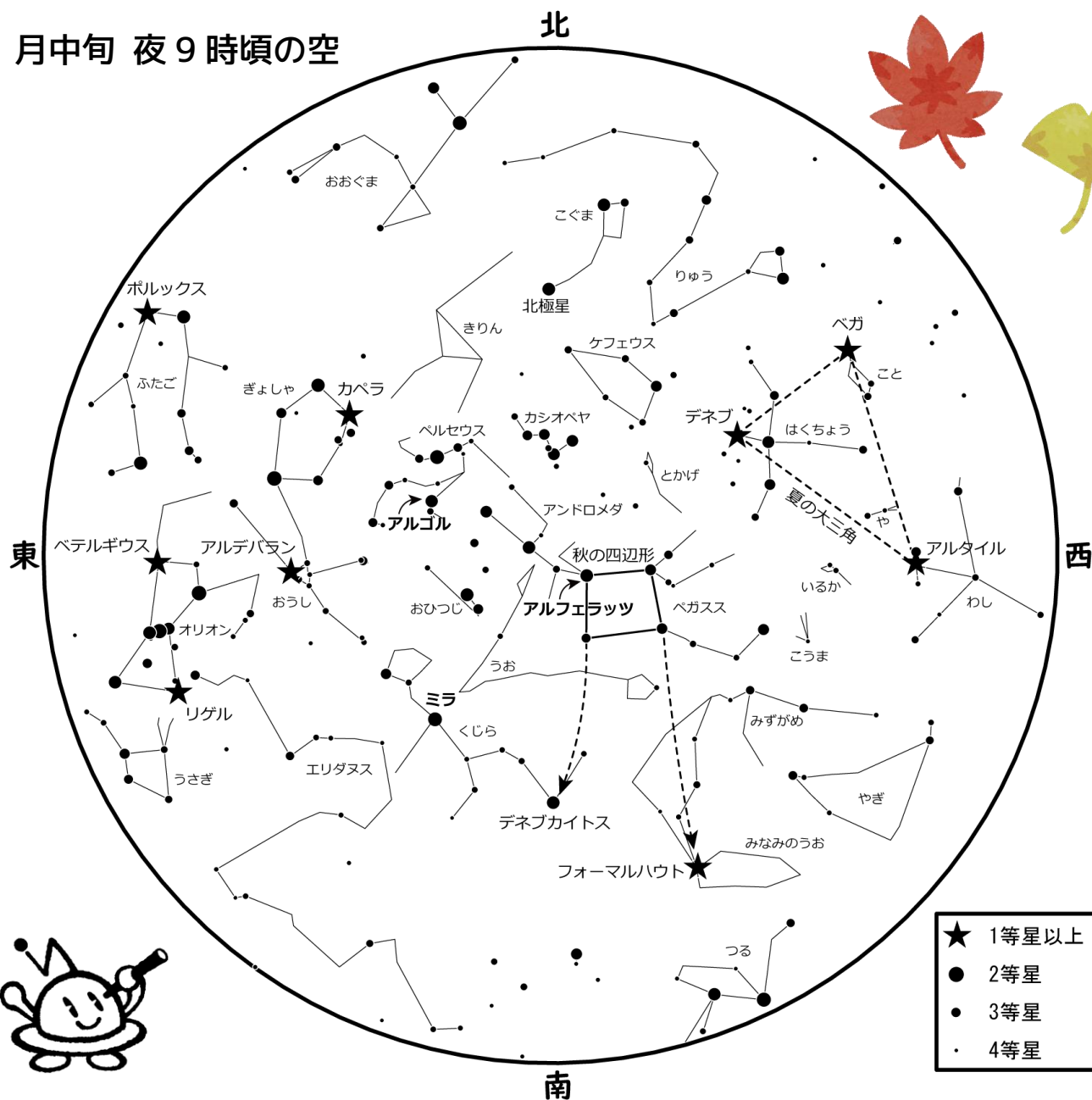


阿南市科学センター 11月の星空案内

11月中旬 夜9時頃の空



空高くに見える秋の四辺形(ペガサスの四辺形)の中で最も北東寄りにあるアルフェラッツ(約2等星)は、実はペガサス座の星ではなくアンドロメダ座の星です。アルフェラッツはアラビア語で「馬」を意味し、元々ペガサス座の星でもあったのですが、2つの星座に所属しているのは紛らわしいので、国際天文学連合(IAU)によりアンドロメダ座の星として決定されました。秋の四辺形の東側の線を南の方へ伸ばしていくと、くじら座のデネブカイトス(約2等星)が見つかります。さらに、くじら座には明るさが変化する変光星として有名なミラがあります。約11か月の周期で約2等星~約10等星まで明るさが変わるミラは、11月上旬頃に明るさのピークを迎えるため今月は見頃となっています。

天体観望会の予約・お問い合わせ先

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵8-1 電話 0884-42-1600

◇ 月の満ち欠け

名称	上弦の月	満月	下弦の月	新月
形状				
見える日	11月4日	11月12日	11月20日	11月27日

◇ 惑星について

名称	水星	金星	火星	木星	土星
見どころ	11月下旬、明け方に東の低空で見える。	夕方、西の低空で見える。 (宵の明星)	明け方、東の低空で見える。	夕方、南西の低空で見える。	夕方、南～南西の空に見える。
明るさ	約0等	約-4等	約2等	約-2等	約0.5等

◇ 113 cm望遠鏡で撮影した秋の天体

【球状星団 “M15”】

M15 は秋の夜空の中では最も明るい球状星団（古い星の集団）で、ペガスス座の鼻の先にあります。球状星団の中でも特に星の密集度が高く、全体の質量のほとんどが中心部に集中しています。メシエカタログには、1764年に星雲として加えられましたが、後にイギリスの天文学者ウィリアム・ハーシェルによって星団であることが確認されました。月明りに強く他の秋の球状星団より高度も高いため、観望会で M15 をリクエストすると、11月中は 113 cm望遠鏡でほぼいつでも見ることができます。



図 1: 球状星団 “M15”

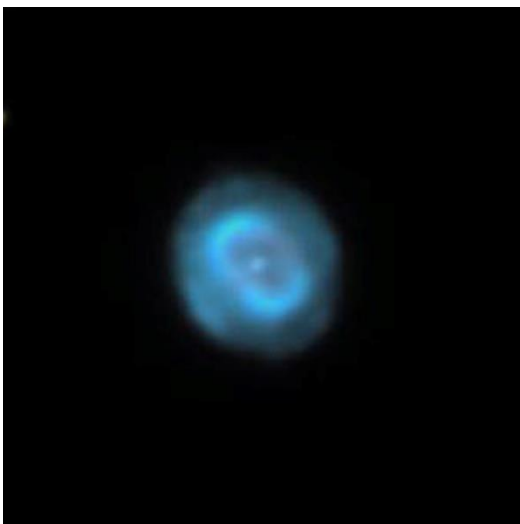


図 2: 青い雪玉星雲

【青い雪玉星雲 / NGC7762】

青い雪玉星雲は冬の天体ではなく、秋の星座の一つアンドロメダ座で輝く惑星状星雲です。中心星が放つ強い紫外線の影響を受けてガスが発光しています。なお、惑星状星雲の中心星はやがて地球程度のサイズにまで小さくなり、白色矮星と呼ばれる星の燃えカスのような天体に進化すると考えられています。

四国最大の 113 cm望遠鏡で撮影した画像を処理すると、青い雪玉星雲のガスの構造や濃淡、中心星が浮かび上がってきます。

11月になると 21 時前には青い雪玉星雲が天頂（真上）付近まで昇ってくるようになります。その時に東の空を見ると、冬の星座たちが昇ってきていて、冬の到来を感じます。